

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590400069		
法人名	医療法人 社団慈生会		
事業所名	グループホーム華房福栄2号館		
所在地	山口県萩市大字福井下3507番地11		
自己評価作成日	平成26年3月30日	評価結果市町受理日	平成26年9月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成26年4月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員はそれぞれの有資格者であり、専門性を活かして入居者様お一人一人に対して、いつも柔軟な対応が出来るように心掛けている。ご本人の思いを傾聴し共感することで、必要と思われる支援を見出し理念とする「自立支援」に繋げている。施設内外の研修を設け、常にスキルアップを目指し、サービスの質の向上につなげるよう努力している。又、法人である医療機関連携を図り、健康面や、精神面の不安を軽減することで、ご本人やご家族に安心をして頂けるよう支援している。食事は食材提供サービスを利用しているが、入居者様のご要望をお聞きし、希望食を取り入れたり、誕生日には、個別ケアを重視し、希望される事が出来るだけ実現できるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は利用者との日々の関わりの中から、利用者の様子や言葉を記録され、思いや意向の把握に努めておられ、利用者のしたいことや出来ることを大切にしておられ、楽しみごとや活躍できる場面をつくられて、利用者一人ひとりがその人らしく張合いや喜びのある暮らしをされるように支援しておられます。個別ケアの取り組みとして、誕生会を事業所の行事の一つとして行うのではなく、利用者個々の希望にそって、美術館に出かけて鑑賞されたり、喫茶店でお茶を楽しまれたり、一人ひとりの誕生日を特別な日としてお祝いされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作り、事業所内に掲示すると共に、名札の中に携帯し、ミーティング時の話し合い、個人面談の時に、理念の確認を行い、自立支援の実践に繋がるよう努め、職員間で共有している。	1号館と2号館が一緒に地域密着型サービスの意義をふまえた理念をつくり、事業所内に掲示し、職員会議で話し合っ共有に努めている。新任者には管理者が理念について説明している。職員は名札に携帯することで、理念を意識づけし理念の実践につなげるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の集会や、草刈作業に職員が参加し、地域の行事などの情報を得るよう努めている。又、地域の道の駅のイベントに出向いたり、七夕祭りの見学、地域のボランティアの催し物には小規模施設より声を掛けてもらい参加している。大正琴やおしゃれ教室のボランティアの方の来訪を楽しみにされている。	法人(3事業所)が自治会に加入し、代表が地域で行われる初春会に参加している。地域の道の駅のイベント(シクラメン祭り、福祉まつり等)や市内のアーケード街の七夕祭りに利用者と共に出かけている。隣接する法人事業所にボランティア(大正琴、歌謡踊り、たたら太鼓、バンブーオーケストラ、おしゃれ教室等)の来訪がある時は利用者が参加し、他事業所の利用者と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域には2ヶ月に1回発行している事業所だより、(施設の状況、活動報告などを記載したもの)を発行している。又、地域の事業所とも連携を図り、地域の方の入居に向けての支援に努めている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者より評価の意義について説明し、理解した上で項目を分担して全職員で自己評価に取り組み、全体で検討しまとめる。日々のケアを振り返り、評価することで見直し、今後のケアに活かせるよう取り組んでいる。	管理者が評価の意義について職員に説明し、全職員が自己評価の項目を分担して2人1組で記入したものを回覧し、管理者と計画作成担当者がまとめて会議で話し合っている。前回の評価結果を受けて、目標達成計画を立て、思いや意向の把握でセンター方式を活用して、利用者の思いに添った個別ケアに力を入れるなど、その人らしい生活を支援するための取り組みをしている。全職員が評価の意義を理解し活用しているとはいえない。	・全職員による評価の意義の理解と活用

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月毎に開催し、利用者の状況、行事、意見要望を聞き、サービスに反映できるよう取り組んでいる。消防関係者の方には年2回参加頂き、火災時の避難経路などの意見交換を行う。又、地域の方にご協力を頂き「協力員」という体制をつくる。訓練時に関わらず、行事にも参加して頂けるような関係が築かれるよう取り組んでいる。	2ヶ月に1回開催し、利用者の状況や行事、防災訓練、外部評価結果等について報告し意見交換をしている。メ災害時の避難経路の改善(段差解消)に取り組むなど、メンバーからの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月の利用状況の報告や、介護保険の更新の手続きに支所の窓口に出向いたり、連絡等協力頂いている。毎月1回地域ケア会議に参加して、情報交換するなど、協力関係が気づけるよう取り組んでいる。	運営推進協議会時に市担当課や在宅介護支援センターと情報交換したり、総合事務所の担当課に出向いて相談し助言を得るなど、協力関係を築いている。月1回の地域ケア会議に法人事業所の代表が出席し情報を共有している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルがあり、法人の委員会、研修に参加し、抑制や拘束の無いケアを職員全体が理解し取り組んでいる。入居者様の動向や原因を把握し、散歩、ドライブ等で気分転換を試みる。玄関には防犯ブザーを取り付け施錠しないなど工夫に努めている。	法人のマニュアルがあり、月1回の職員全体会議で話し合い理解して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについて気になるところは管理者や職員同士が注意しあっている。玄関に施錠はしていない。外に出たい利用者には職員と一緒に散歩をしたり、ドライブをして気分転換できるように工夫している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内に委員会があり、施設からも委員として参加しており、研修に参加した時には、その内容を職員の全体会議等で報告している。日頃より入居者様の観察に努め「絶対にあってはならないこと」とし、ケアにあたっている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護の必要な入居者様はいないが、後見人制度の研修に参加し、内容を職員間で共有し、全職員が周知できるようにしていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、重要説明事項に沿いながら当事業所で出来ること、出来ないことの説明をしている。重度化や、看取りついでへの対応、医療機関との連携体制の説明をし、家族の了解を得ている。改正時には、書面にて家族に報告、説明をしている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の利用料の支払い時や、面会時、運営推進会議などで家族からの意見、要望が聞けるような体制を取っている。自由に意見が出るように意見箱を設置している。苦情が寄せられた時には、職員間で対応法等を話し合い、家族に報告するなどして、ケアの改善に努めている。玄関に相談窓口及び、外部機関を明示、苦情処理の手続きも定めている。	苦情や相談の受付体制や処理手続きについて契約時に家族に説明をしている。意見箱の設置をしている他、毎月の利用料の支払いで来訪した時や面会時に別室を用意し、利用者の受診のことや日頃の様子を家族に伝えて、意見や要望が言いやすいよう配慮をしている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議、朝夕の申し送り時、個人面談を設け、職員から意見や提案を聞く機会を設けている。日常の業務の中で気軽に意見が出せるよう心掛けている。	月1回の職員全体会議や管理者が個別に話を聞く個人面談など、意見を聞く機会を設けている他、申し送り時など日頃の業務の中で職員の意見や提案を聞いている。利用者が一緒に楽しむ食事会の企画や誕生日を迎えた利用者の個別の楽しみ事の支援に取り組むなど職員の意見を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者も常に現場に出て、勤務状況の把握、職員の資格習得に向けた支援、環境づくりに努めている。健康診断は、年2回実施されており、心身の健康管理も配慮されている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修には、必要性があれば参加し、外部研修は情報を職員に伝え、段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。内部研修は年間計画を立て、テーマを決めて職員会議の中で30分程度、管理者、看護師、計画作成担当者、各職員が、実施している。	外部研修は情報を伝え、職員の希望や段階に合わせて勤務の一環として受講の機会を提供している。受講後は復命をし情報を共有している。法人研修の資料を閲覧している。内部研修は月1回、身体拘束、虐待防止、熱中症対策、書類の記入方法などテーマを決め、各職員が担当して30分弱、全員参加で相互に学びあっている。新人は法人研修受講後、先輩職員が指導している。資格取得について支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人外の研修に参加することで、グループワークを通じ、各施設が抱える問題点などを話し合い、交流する機会はあるが、ネットワーク作りには現在も至っていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にご家族と一緒に見学して頂いたり、訪問したりして、直接ご本人や、ご家族と面談し、思いや要望を充分にお聞きし、安心頂けるよう努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	質問や、不安に思っておられることを、解りやすい言葉で、理解して頂けるよう充分説明を行い、最善な方法を共に考え、信頼して頂けるよう努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様や、ご家族様の思いを充分にお聞きし、状況を見極めたうえで、介護支援専門員を中心とし、医師や、地域包括センターとも連携を取り、必要なサービス利用の検討にも努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の残存機能を十分に活かし、役割分担をして、お互い協力しあい、出来るだけ、自立に向けての環境づくりに努める。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用料支払い時や、面会時に入居者様の状況や思いを説明し、必要な支援等を話し合い、協力を仰いだりして、より良い関係が築けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通院の帰りに出身地近くをドライブしたり、誕生日や、記念日に本人の希望をお聞きし、美術館で鑑賞したり、ご家族や、職員と一緒に外食や、買い物に出掛けたりしている。	友人や知人、親族の人の来訪がある他、同敷地内の他事業所に来訪した知人等との交流を支援している。家族の協力を得て墓参り、葬儀や法事への首席、自宅訪問、外食、行きつけの店での喫茶など、馴染みの関係が継続できるように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格や、レベルを考慮に入れ、居室に閉じこもることの無いよう、入居者様同士が関わりあえるような場面作りをしており、トラブルが発生した時は職員が介入し、関係の修復に努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者様が、他の医療機関に移行されたり、他施設に入居された場合等、次のサービスがスムーズに受けられるよう、情報交換を充分行うようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントシートを使用し、入居者様の生活歴や、思い、嗜好を十分に理解したうえで、日常生活の中での入居者様の言葉や、状況を記録し、又、ご家族様の意見をお聞きしながら、ご本人の希望や思いの把握に努めている。	センター方式のシートを活用し、アセスメント時に希望や意向の把握に努めている他、利用者を担当する職員が日常の関わりの中での会話や様子などから把握したことを記録して、職員間で共有して思いや意向の把握をしている。困難な場合は、利用者の言葉や表情から推し測って、職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様の情報提供をもとに、ご本人や、ご家族、知人からの情報を収集し、フェイスシートを作成し、これまでの生活環境に近づけ、不安の無い生活が送れるよう支援する。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の一日のご様子をケア記録に記入し、食事や、排せつ状況、食事や水分の摂取量、睡眠状態を把握し、ご本人の言葉や思い、状況、そのことに対する対応をケース記録に記入し、状況を把握するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様毎に担当制を設け、計画作成者と共にご本人や、ご家族の言葉に耳を傾け、必要なサービスを見極め、介護計画を立てている。又、担当者は、1か月ごとに状況や、考察を記入している。	本人や家族の意向を参考にして、利用者を担当する職員が中心になって全職員で話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月に1度モニタリングを実施し、6ヶ月に1回見直している他、状態の変化に応じて見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の言葉、その時の状況や対応、結果を記入するよう指導しており、カンファレンス時に職員間で話し合い、情報を共有しながら、見直しや、モニタリングに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の体調不良時には医療機関に受診し、不安を解消したり、要望があった時や、天気の良い日にはドライブに出掛けたり、出来るだけ本人の思いに近づけるよう支援している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理美容車の活用や、買い物や、地域の催し物に参加し、地域性を理解したうえで共存していけるように努力している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の医療機関のみに留まらず、住み慣れた地域の通いなれた医療機関への受診が出来るよう支援している。生活の中で知り得た情報を主治医に報告し、その方に合った医療が受けられるよう配慮し、支援している。	本人や家族の納得を得て協力医療機関をかかりつけ医としている。協力医療機関には「外来受診票」に必要事項を記入して情報を提供し、事業所が受診支援を行い、他科の受診は家族の協力を得て受診支援を行っている。職員間や家族と受診結果の共有をし、緊急時や夜間は協力医療機関と連携を取って適切な医療が受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康チェック、朝夕の申し送り等で、その方の状況を十分に観察し、異常等の早期発見に努めている。受診が必要であれば、医師の指示を仰ぎ、受診へと結びつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	症状の詳細な情報、日常の様子情報を収集し、情報提供を行っている。他の医療機関への入院の際には、地域連携室、法人の在宅療養部相談室と連携を取り、退院時の方針、受け入れ等の体制を検討している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に事業所の方針を家族に伝えている。重度化した場合や、医療的な処置が必要になった場合主治医と連携し、ご家族、職員、関係者とその都度話し合い、方針を共有し、適切な医療が受けられるように支援している。	契約時に、事業所でできる対応について家族に説明している。重度化した場合は、家族やかかりつけ医と相談し、職員間で話合っ方針を共有し、移設も含めて本人や家族の気持ちに添った支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故報告、ヒヤリハット報告書に記録し、その場にいた職員で対応策を話し合い、月1回ある医療安全委員会で検討し、助言を得て、全職員で話し合い共有して、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。全職員対象の、応急手当や、初期対応の訓練は、研修予定に組み込み、定期的な訓練の実施に取り組んでいる。	事故報告書やヒヤリハット報告書に記録し、その日の職員で対応策を話し合い、月1回の法人の医療安全委員会の助言を得て、全職員で検討して一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。月1回の職員全体会議で誤嚥、転倒、感染症など緊急時の対応について学び、救急救命法については外部の研修を受けているが、全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけているとはいえない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の充実
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、地域の消防関係者の方にも参加頂き、夜間想定避難訓練を3施設合同で実施している。この度、地域の集会で「協力員」という形で地域の方との交流会を開催し、今後、避難訓練だけでなく、催し物などにも参加して頂けるようお願いしている。	年2回、消防署の協力を得て、同敷地内の他施設と合同で夜間を想定し利用者も参加した避難訓練、消火訓練、通報訓練、土砂災害訓練を実施している。運営推進会議で出た意見から、避難経路の改善に取り組んでいる。地域への協力を働き掛けているが、協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様お一人一人の性格や、生活歴を把握し、プライバシーを損ねない言葉使いや、声掛けには気をつけている。又、声のトーン、大きさ、調子に充分配慮している。不適切な対応があった場合は、管理者が注意するなどの対応をしている。	内部研修で接遇について学び、人格を尊重し敬意を持った言葉かけや対応をしている。気になるところは管理者が注意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様と共に生活、行動しながら、日常の会話や言動の観察を充分に行い、思いや、要望を聞き出せるようにしている。又、言語障害や、聴力障害のある入居者様には、解りやすい言葉で発語を導きださるよう努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調、気分等に十分に配慮し、施設内の掃除を一緒にしたり、散歩、ドライブ、レクリエーション等、柔軟な対応に努めている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際には、お化粧品をして頂いたり、ボランティアによる「おしゃれスクール」を開催し、ハンドマッサージ、マニキュア、お化粧品をし、気分転換のお手伝いをしている。又、要望があれば、地域の移動理美容車にて散髪をして頂いている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の提供サービスを利用しているが、入居者様の要望をお聞きし、毎月1回の昼食に、希望の献立をお聞きし、出来る範囲のお手伝いをして頂き、手作りで提供している。盛り付けや、配膳等、見た目にも気をつけている。職員は同じテーブルで食事をとり、摂取状況の見守りをする。出来る範囲でのお手伝いもされている。	三食とも調理済み食材を利用し、ご飯や汁物、デザートは事業所で調理して提供している。利用者の好みにより配食の食材を変更したり、月1回麺類やカレー、ラーメンなど利用者の好みを取り入れた献立で調理する日を設けている。利用者はホットケーキやたこ焼き、おはぎ、ゼリーなどのお菓子づくりや、調理の下ごしらえ、後片付け、台拭きなどを職員と一緒に、同じテーブルを囲んで食事を楽しんでいる。季節行事や誕生会、園外レクリエーションでの外食(刺身など)、お茶会など食事を楽しむための工夫をして支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人ひとりに合わせた食事形態や、午前、午後、入浴後等、水分補給の機会を設けている。又、法人の医療機関と連携を取り、栄養や、食事制限などの指導を受けている。水分摂取量、食事摂取状況を記録している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き、義歯洗浄の声掛けを行い、必要に応じて介助を行い、口腔内の残渣物のチェックを行っている。夕食後は、義歯洗浄剤で義歯の清潔保持に努めている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の状態に合わせて、それぞれに適した、紙パンツや、尿取りパットを使用している。排せつチェック表の活用により、排せつパターンを把握し、声掛けや、誘導を行い、トイレでの排せつを心掛けている。又、汚染時にはプライバシーに配慮しながら、交換をし、清潔保持に努めている。	ケア記録に記録してパターンを把握し、一人ひとりに合わせて、プライバシーに配慮した声かけや誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排せつ状態をチェックし、水分補給の促し、適度な運動の実施をし、排便に繋がるよう支援をしている。排便のコントロールが必要な入居者様には、主治医に指示を仰いでいる。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は、プライバシーや、羞恥心を配慮し、個々の入浴を一日おきに14:00～16:00頃までとし入浴されている。汚染時や、その日の体調で時間や順番を、変更するなどして、柔軟な対応を心掛けている。	入浴は毎日14時から16時の間可能で、利用者の希望や体調に合わせて1日おきに入浴できるように支援している。本人の好みに合わせた湯温に調整し、職員と会話を楽しみながらゆっくりと入浴できるようにしている。入浴をしたくない利用者には無理強いをせず、時間をずらしたり担当する職員をこうたいしたり、声かけの工夫をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	空調設備、換気機能、加湿器等の利用により快適に過ごして頂けるよう、配慮している。又、温度計や、湿度計を設置し、コントロールをしている。リネンの交換や、調整を行い、安眠できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様毎に服薬状況をファイルに閉じており、内容は、看護職だけでなく介護職も把握している。ケースの中に飲む時間帯毎に配布し、服薬介助する職員と2重のチェックをし、誤薬が無いよう努めている。又、服薬内容が変更された時には、様子観察を行い、医師へ報告し、指示を仰いでいる		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人一人の生活歴により、出来る範囲でのお手伝いをして頂き、残存機能の低下防止を図る。朝のティータイムでは、好みの飲み物をお聞きし、提供している。又、誕生日には、個別ケアを重視し、希望されることが出来るだけ実現できるよう支援している。	3施設合同で開催する夏祭りや運動会、敬老会、年忘れ会、新年会などの行事や風船バレー、ボトル釣り、塗り絵、歌を歌う、玉入れ、テレビの視聴(水戸黄門、NHK朝ドラ、歌謡ショーなど)、食事の下ごしらえ、台拭き、下膳、洗濯物干し、洗濯物たたみ、部屋や廊下の掃除など、楽しみ事や活躍できる場面をつくり、気分転換の支援をする他、朝のティータイムでは好みのお茶を選んだり、誕生日の個別の楽しみ事の支援など、一人ひとりに合わせた支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の体調に合わせて、散歩やドライブに出掛け、苑外レクでは、入居者様の希望をお聞きし、りんご狩りや、外食、美術館の鑑賞等実施している。又、お墓参りや、仏の事等も、希望されれば、家族にお伝えし、思いが叶うよう支援している。	法人敷地内の散歩や受診帰りに自宅周辺や公園などのドライブに日常的に出かけている他、誕生日の個別ケアの一環として希望を聞きながらドライブに出かけている。園外レクリエーションで花見やリンゴ狩り、地元の祭り、外食などに出かけ、家族の協力を得て法事、葬儀への参加などの支援を行っている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に家族と相談し、預かりの同意を得て、預り金を保管している。苑外レクや、外出時には、ご本人様が希望されれば、可能な範囲で買い物が出るよう支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	敬老の日、誕生日、クリスマス等、行事に合わせて家族の方よりお祝いメッセージを頂いたり、プレゼントが届いた時等に、ご本人様に電話をして頂いている。文章を書かれることは難しいが、希望があれば支援できるような体制はある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	道路に面した窓は大きく取っており十分な採光が取れ、四季の様子や、他施設の職員、地域の方との関わりが持てるように考慮してある。台所、浴室、トイレ入口に表札を、又居室入口には、植物の名前を利用し、混乱される入居者様には、許可を取り、小さく名前を表示する。季節ごとの花や、室温、湿度はコントロールされ快適な空間を提供している。	居間兼食堂は広く、窓や天窓から自然の光が差し込んで明るく、温度や湿度、換気に配慮している。季節を彩るつつじの花を飾り、壁には利用者と一緒に作った鯉のぼりの貼り絵を飾っている。台所の様子を身近に感じながら、食卓やテレビの前のソファでゆっくりくつろぐことができ、居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、居間は共有のスペースであり、ソファを設置し、好きなテレビ番組を楽しまれたり、体操やレクリエーションを楽しまれる。新聞を欠かさず読まれたり、手作業もご本人のレベルに応じて提供している。居室は、家具やベット等を好みの位置に配置し、家族の面会時、休息時に利用されている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご家族に居室を確認頂き、必要の物を揃えて頂く。又、その時にご本人様の思い入れのあるものや、使い慣れたものを持ち込んで頂くようお願いし、ご本人様が混乱されないよう支援している。	ベットや小箆筒、テレビ、ソファ、テーブル、椅子、衣装かけなどを持ち込み、家族の写真や本人の作品などを飾って、その人らしい居心地の良い居室になるよう工夫している。自室の入り口には本人のお気に入りの花の名前を活用し、わかりやすいように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や、トイレの場所が解らない入居者様に対し、居室入口にさりげなく目印をしたり、トイレの横に使用中の札を設置したりして、自らが解るように考慮している。又、掲示物や、季節の花を飾ったり、季節の行事の実施で本人が確認できるような工夫をしている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム華房福栄2号館

作成日：平成 26年 9月 22日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	全職員による評価の意義と理解の活用	全職員で、自己評価や、外部評価の意義を理解しながら、評価の結果を活かし、具体的な改善に取り組んでいく	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価の内容の検討を、職員全体会議等で、早めに取り組む 記入した内容を職員全員で検討しまとめる 評価の結果をもとに、今後の課題点、改善点を話し合い、実践に繋げる 	12ヶ月
2	35	全職員が実践力を身につけるための、応急手当 初期対応の定期的な訓練の充実	急変や、事故に備えて、応急手当、初期対応の訓練をすることで、実践力を身につける	<ul style="list-style-type: none"> 施設内で起こりうる事故に対しての定期的な研修、訓練の実施（看護師を主体に、日々の業務の中での研修にも取り組む） 	12ヶ月
3	36	地域の協力体制の構築	地域の住民の皆様に施設の性質を理解して頂き、災害時の協力を仰ぐ	<ul style="list-style-type: none"> 施設だよりの配布の継続 運営推進会議等で、災害時に協力して頂ける体制を検討していく 平成26年4月より、1回/月の地域協力委員会議を開催、今後も会議を継続（住民の皆様にご協力頂ける行事のお知らせ、要望、助言を受ける） 	12ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。